

【熊本県 P T A 連合会賞】

私とゆうあい中学校

熊本県立ゆうあい中学校 2年 田中 節子

入学して二年目の前期前半が無事終わりました。今年は昭和百年、戦後八十年という節目の年にもなり、有名な方々も沢山亡くなられ淋しい気持ちになりました。

それで、私は！？というと、昨年四月からここ、夜間中学校の学生という生活をしています。昼と夜の時間の使い方が一変するこれまで考えた事もなかつた生活です。

当時八十七歳で、学校とか入学とか、およそ他所の世界でした。南阿蘇の応急仮設住宅の資材を利用して「夜間中学校の校舎を建てた。」というニュースに興味を持ち、覗き見学にきました。部屋は木の香りが残り、ビニールで包まれた机・椅子が運び込まれている時で、ガタガタしていました。そこで悪戯に面接を受けてしまったのです。この厚かましさと物好きさに立ち会わされた先生方は、さぞかしい驚かれた事だと思います。生年月日の確認に来られた方もいました。入学後、当時の事ながら、六月暑さの増す中で、昼と夜の生活逆転に準備不完全な心と体がついて行けず、一ヶ月間欠席という事態になり、その時点で復帰は断念と考えました。その旨の届け出の為に足を運んだ先で、このゆうあい中の魅力に再び引き込まれてしまったのです。担任の先生の優しさ、気配り、各学科の優れた先生方の個性豊かな授業、生徒達への校門送迎、校長先生の個々の名を呼んでの言葉かけ、その元気、その横に居て、そっとサポートされる教頭先生、再び、私は戻ってしまいました。

「誰一人取り残さない、一人一人が輝く未来への学び舎」を  
「教育理念」とする夜間中学校。言葉だけでなく、日々実践に努力挑戦される先生方の、心と姿が伝わります。

戦中、戦後の「衣食住」の貧しさから、学資の乏しさに喘ぎ、学校へは跣で通い、弁当箱の無い弁当を持ち、それでも学校に行ける事がうれしかった子供の頃の学校と比べてしまいます。私は思います。与えて下さるものなら受け、自分らしく返す努力をしようと。

“学ぶこと”は、人の心を豊かに育てます。

生きていく世界が広がります。

そして幸せを学ぶことでもあると思います。私はここで学ぶ事の大しさを学んでいます。

ある日、なにげなく受けた苦手な授業が、自分の日々の暮らしに直結している事に気付きました。困っていた事への答えにもなりました。“智に学び”“人に学び”昨日と今日の自分の違いに気付けたら、うれしいですね。“信念”は“強さ”を連れて来るようです。「授業料、教材無料の公的支援を頂いても、お返し出来るものが有りません。自己満足に過ぎないと思いますよ」の私に、「それでいいんです！！」の校長先生の一言。私の入学の心は、これで決まりました。時折、どこからか、この張りのある声が聞こえて来ます。

そして今日もここにいます。